

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4090400104
法人名	社会福祉法人 正勇会
事業所名	グループホーム ソレイユの丘
所在地 (電話番号)	〒803-0836 福岡県北九州市小倉北区中井1丁目7番14号 (電話)093-562-2000

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成22年2月15日	評価確定日	平成22年3月5日

【情報提供票より】(平成22年1月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤(専任7人 兼務2人) 非常勤0人 常勤換算9人	

(2) 建物概要

建物形態	単独型	築 2年
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費21,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(198,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	400 円	昼食 600 円
	夕食	600 円	おやつ 昼食代に含む
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成22年1月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	久米内科クリニック ヤマチ歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の上の一戸建や集合住宅の中に、複合福祉施設と併設のグループホーム「ソレイユの丘」がある。静かで落ち着いた雰囲気のある玄関から、リビングルームに入ると、利用者と職員の明るい笑い声が聞こえ、リハビリ体操や趣味の手芸、カルタ取り等、楽しそうである。天気の良い日は日課の散歩や数匹のセラピー犬と遊んだり、高校生のボランティアや小学生の「お助けマン」との交流は、利用者の喜びの一つである。医療連携加算をとり、提携医の往診が毎週あり、看護師が常勤し、看護、介護記録を充実させて、利用者一人ひとりの健康管理をきめ細かく実践している。隣接の法人本部と合同の夏祭りには、地域の方にたくさん参加してもらい、活発な交流が始まっている。また、散歩コースでもある近くの市民センターに、立ち寄ったり、行事に参加したりし、開設2年目のグループホームであるが、地域の中で、グループホームとしての存在感が出てきている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は7件あったが、職員全員が、目標を持って仕事をし、4件が改善出来ている。今回は「市町村との連携」「権利擁護に関する制度の理解と活用」「同業者との交流を通じた向上」の3件が課題として取り組まれていることが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が、職員に外部評価の意義を説明し、理解してもらい、職員一人ひとりが、自己評価作成に向けて取り組み、管理者が取りまとめ、作成している。提出された評価結果は、職員間で回覧し、改善に向けた取り組みを実施している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は、法人本部の研修室で2ヶ月毎に定期的に関われ、家族代表、自治連合会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム施設長、管理者、職員が参加し、ホームの現状、利用者の暮らしぶり、行事の案内、その時々でのホーム内外の問題点等を報告し、参加者からは、質問、要望、情報等が活発に出され、議事録もきめ細かく記録されていて、充実した運営推進会議である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、廊下には内外の苦情相談窓口を掲示し、家族の意見が出やすいように、工夫しているが、事業所に全てお任せのところが見られ、なかなか意見が出てこない。職員は家族参加の行事や来訪時に、積極的に話しかけ、利用者の状況等を話して、家族の悩み、心配事等を聴きだす努力をしている。また、出された意見は、ホーム運営に反映されるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	運営推進会議参加の委員から、校区の行事と法人全体の行事を出し合っ、地域住民や利用者、職員が相互参加が出来るようにして、地域との交流が活発になるように、協力してもらっている。また、小学生の「お助けマン」によるボランティアの交流が、利用者にとって、楽しいひと時であり、残存能力を十分発揮できる場として、家族からの期待も大きい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の中に地域との連携を謳い、「笑顔を決やさず、思いやりを持って接し、自分らしい希望の持てる生活が送れるよう支援します」という事業所独自の理念を職員全員で作らげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をミーティングや研修会で確認したり、目に付くところに掲示することによって、管理者と職員は理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高校生のボランティアの受け入れ、地域の小学生「お助けマン」との交流、また、町内会に加入し、文化祭など市民センターの行事に参加したり、法人の合同行事である夏祭り、もちつき大会などに地域の方を招いたりして交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、評価の意義を理解し、問題点を整理し、改善に向けて取り組んでいる。今回、自己評価は、ミーティング時に職員が数項目ずつ分担し記入したものを管理者がまとめる形で作成した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に会議を開催し、家族代表、自治連合会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム施設長、管理者、職員が参加し、ホームの現状、利用者の暮らしぶり、行事予定の報告などがあり、質疑応答も活発に行われる、充実した運営推進会議となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターと連携して、地域に住む認知症の方への支援を行ったり、地域住民、運営推進会議のメンバーが参加しての研修会を行っている。	○	積極的に市町村の担当窓口に出向き情報交換を行い、民生委員などの見学の受け入れや介護相談会など、市町村と協働しての取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度についてのパンフレット、資料を準備し、入居時に本人、家族に説明している。	○	管理者、職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修会に参加し、一人ひとりが制度を理解し、必要な利用者や家族に対して、いつでも説明が出来るような体制づくりが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ソレイユの丘だより」を発行し、行事のスナップ写真や利用者の暮らしぶりを伝えている。また、「担当者からの一言」の欄を設け、利用者一人ひとりのホームでの暮らしぶりや、健康状態を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置したり、内外の苦情相談窓口を掲示するなど、家族の意見が出やすいよう工夫している。運営推進会議や家族の来訪時に、意見、要望を聴きだす努力をし、出された意見は、ホームの運営に出来るだけ反映されるようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者と職員の馴染みの関係を大切に考え、職員の離職を防ぐ努力をしている。やむおえず代わる場合は、異動後もコミュニケーションをとるなど利用者への配慮をしている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢によって差別していないので、幅広い年齢の職員が働いている。職員の休憩室や休憩時間を設け、少しでも待遇改善に努めることによって、職員が生き生きと働けるよう配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとり組んでいる	地域住民、運営推進会議のメンバー、職員を対象にした人権研修を、保険福祉局人権推進センター職員の協力で開催し、人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や、年間研修計画を立て、法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員の参加を勧めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと一緒に行事を行う計画をたてるなど、交流に向けて取り組んでいる。	○	福岡県グループホーム協議会等に参加し、ネットワーク作りや職員の相互訪問などを通じて情報交換や技術の交流を行い、さらなるサービスの質の向上を期待する。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は、利用者が敷地内のデイサービス、ショートステイ等を利用している時から、交流があり顔なじみの関係となっている。また、外部からの見学は随時受け付け、少しずつホームの雰囲気に馴染めるよう家族と協力しながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、一緒にエプロンをつけて台所に立ち食事の盛り付けを行ったり、一緒に洗濯物をたたんだりしながら共に過ごし、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者寄り添い、利用者の独り言に注意深く耳を傾け、意向の把握に努めている。思いや意向の表出が難しくなった場合は、個人の履歴の見直し、家族に話を聞きながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望を確認したうえでミーティング時に全職員で話し合い、意見を出し合い、利用者の希望に沿った暮らしが継続出来るように介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直している。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度、関係者と話し合い対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が常勤し、提携医の週1回の往診、訪問歯科、かかりつけ医の受診の支援など健康面を支える体制は万全である。また、お花見、虫観賞、クリスマスのイルミネーション見学など、利用者、家族のその時々要望に対応し、季節を五感で感じる事の出来る外出を行うなどの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診を支援しながら利用者の情報を共有し、24時間適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の希望を尊重しながら、重度化や終末期のあり方について、ターミナルケアの指針を作成し、家族に説明し、同意を得ている。また、家族、主治医、看護師、職員で話し合い、全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、言葉かけや対応に配慮している。また、個人ファイルなど個人情報の取り扱いについても充分気をつけている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、家族の希望を優先し、利用者一人ひとりのペースを大切に、その日一日を過ごせるようゆったりと寄り添い、支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の好みや力を活かしながら、一緒に食事の盛り付けをしたり、配膳、下膳を行っている。エプロンをして職員と一緒に台所に立つ利用者の姿が見られ、利用者と職員は同じテーブルで同じものを食べ、楽しく会話をしながらの食事風景である。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している	基本的には、週に3回入浴してもらうよう声掛けをしている。一人ひとりの希望やタイミングに配慮し、楽しみながら入浴できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事の支度、金魚の餌やりなど一人ひとりの力を活かした役割をお願いしている。また、干し柿作り、園芸、アニマルセラピーやカルタとり、折り紙などで気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物、園芸活動など、一人ひとりのその日の希望に沿って、なるべく戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は原則として鍵をかけていない。入浴時など職員の手が足りない時には安全のためにやむおえず鍵をかけることもある。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の評価を活かし、災害に備えた非常食、飲料水、毛布の備蓄に取り組み、すぐに持ち出せるよう玄関横の倉庫に準備している。また、夜間を想定した避難訓練は3月に実施する予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量をチェック表に記入し、職員は利用者一人ひとりの摂取量を把握し、それぞれの状況に合わせて支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を敷いた日当たりのよいリビングはお雑様が飾られ、利用者が思い思いにくつろぐ姿が見られる。床暖房、空気清浄機で、室内の温度、湿度、換気も配慮され、気持ちのよい生活環境が整えられている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳や障子などを加えた和風作りで、利用者は落ち着ける居室となっている。また、利用者は使いなれた家具や小物を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫している。		